

# 研究だより

校内研究便り ④  
令和5年3月1日  
研究推進部

## 1 来年度の研究について各学年で話し合ったこと

### ○ 研究の方向性について

- ・ 具体的な方向性を知りたい。ゴールは何か。
- ・ 主体性が何を指すのか分からない。
- ・ 児童の主体性か、教員の主体性か。
- ・ どの場面で主体性を見取るか。
- ・ どのような姿が見られれば主体的だといえるのか。評価や目指す児童像の設定が難しい。

→ 主体的な児童の姿が分からないから、それを見出すために研究をする。

### ○ 教科・領域等について

- ・ 国語や算数で主体性を引き出す手だてを考えたい。
- ・ 今年度、算数で研究をしたので、それを生かせるように再び算数で研究をしたい。
- ・ 特活で研究したい。学級会の進め方を学びたい。
- ・ 特活だと様々なやり方、考え方があるので幅が広がって難しいのではないか。
- ・ 一年目は、どの教科で主体性を見取るかは学年で選びたい。

→ 教科・領域を絞らない。

### ○ 研究の手だて

- ・ 模擬授業を通して研修したい。
- ・ 講師を呼びたい。
- ・ 低中高で授業をすることは賛成。後期なら低中高での授業もできなくもないと思う。
- ・ OJT の時間等を活用して教員が研修をする。
- ・ すぐに使える各教科の手だて、実践事例を知りたい。一年に2回くらい勉強会をしてもいい。
- ・ 学習指導要領に表記されている各教科の主体性について整理する。

→ 模擬授業、講師の招へい、研究発表への参加等ができるように調整する。

## 2 上記のことを踏まえて研究推進委員会で決めた来年度の方向性

### ○ 研究の方向性について

- ・ 主体的な児童の姿が分からないから、それを見出すために研究をする。
- ・ 教科は絞らない。
- ・ 2年以上の長期的な視点で研究を進める。(R5 特色ある学校づくり推進校に応募)
- ・ 来年度は前期を【課題設定・情報収集期】、後期を【発展・充実期】、2年目を以降を【自立・完成期】とする。(案)

1年目前期 【課題設定・情報収集期】	1年目後期 【発展・充実期】	2年目以降 【自立・完成期】
「主体的な児童の姿って何？」という疑問の解決に迫る段階	【課題設定・情報収集期】でつかんだ児童の実態や学んだことを生かして実践を積む段階	1年目の研究における成果と課題を基に、さらに実践を重ねる段階
・ 児童の実態の把握 ・ 講師の招へい ・ 実践例の収集 ・ 研究発表への参加 ・ OJT 等を活用した研修 ・ 模擬授業	・ 低中高1本ずつの研究授業 ・ 講師の招へい ・ 実践の成果と課題のまとめ	・ 各学年1本ずつの研究授業 ・ 講師の招へい ・ 仮説の検証 ・ 実践の成果と課題のまとめ

## 【参考資料】2月8日（水）各学年で話し合った今年度の研究の課題について（抜粋、主に課題点）

### ○ 授業について

- ・ 縦の教材研究ができるようになったが、1年生から順に授業を行っていくことは現実には難しい。
- ・ 実際に児童の力がどれだけ定着したのかの検証が不十分であった。できれば2年間以上かけて研究に取り組みたかった。
- ・ 各学年での研究になってしまったので、低・中・高分科会で研究を深められると良かった。学年で協力して進めるよう心がけたが、授業者の負担が大きかった。
- ・ 若手が授業をすることが多かったが中堅・ベテランが授業を見せる機会があっても良かった。
- ・ 習熟度別で授業をしたが、3クラスの違いが見えづらかった。もっと教具や指導の手だてに明確な違いをもたせても良かった。
- ・ 同じ授業を見ていないから、協議がしづらい。見ていなくても協議ができるように、全学年通した視点があると良かった。3～6年生は3クラスで行うので、共通理解が難しかった。1クラスを全員で見た方が、研究が深まるのではないか。

### ○ 協議会について

- ・ 低学年の授業者は、他のグループの話し合いの内容も知りたかった。同じ部屋でそれぞれグループ協議を行うか、授業者はグループを移動しながら話し合えると良かった。
- ・ 各グループで出た疑問や改善点を短冊に書き出し（ロイロでも良い）、全体協議会で同じ意見はまとめ、グループで意見を出した人が説明するようにすると多くの先生の意見が聞け、理解も深まるのではないか。付箋を使ったKJ法など。
- ・ 今まで通り全体会で共有は必要、ただし全員が話せる機会（質問や感想でもいいので）があってもいいのでは。協議の中で言いたいことがあっても、自由に言いづらい雰囲気はあった。
- ・ 協議の時間が短い。
- ・ 講師は、年間で一人が良い

### ○ 指導案の作成について

- ・ 指導案は1週間前の提出が良い。単元の途中で習熟前にレディネスを行わなければならない、考察を載せることが難しかった。
- ・ 学年によって、学力の差があるので、参考にできるところとできないこともあった。

### ○ 全体的な運営について

- ・ 行事や成績の時期と重なり大変な学年があった。時期を少しずらせると良い。
- ・ 研究の方針や教科を決定するとき、全体の場の話し合いや合意形成が必要だと思った（アンケートでとった結果、研推で話し合って全体の場で提案するというステップを踏むなど）
- ・ 自分たちから提案した研究内容で研究をしないと、意味がない気がする。研究方針を全員が理解し、全員で合意した上で研究したい。
- ・ 子供の現状を踏まえた研究内容でもいいと思った（前年度の学年の成績等を分析しながら）
- ・ 専科は担当の学年に入りばらせる形で良かった。

### ○ 来年度に向けて

- ・ 教科は絞り、その教科の主体性とは何かを研究していった方が良い。
- ・ 主体性もどういった姿を主体的というのか明確にしてからスタートするべき。
- ・ 初めの年に教科を絞り、主体性とは何かを知る。次の年に主体性について知ったことを他の教科でも生かしていく。
- ・ 他の教科で研究するとしたら、国語が良い。新学習指導要領についても学びたい。
- ・ 今年度、算数で行ったので、次年度も引き続き、算数がよい。